地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No.32（2023年1月）

直通TEL 089-987-6270（前方連携）
089-947-1165（後方連携）
FAX 089-987-6271

厳冬の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度　地域連携室便り No.32 1月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしくお願いいたします。

今回の内容

❶ オンラインでのカンファレンスを始めました～コロナ禍でも顔の見える連携を大切にしています～ 小笠原佑記
❷ Navios EXハイエンドクリニカルフローサイトメーターの導入・・・・・・・・・・・ 中瀬浩一
❸ 診療科紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 村上太一
❹ 第121回医療連携懇話会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 井上考司
❺ 改善コラム　Part 7・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 原田雅光
❻ 地域医療連携室からのお知らせ～メールのご登録のお願い～

オンラインでのカンファレンスを始めました
～コロナ禍でも顔の見える連携を大切にしています～

地域医療連携室　MSW 小笠原 佑記

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、当院へお越しいただいてカンファレンスを実施することが難しくなっておりました。そこで今年度、地域医療連携室ではZoom Cloud Meetingsを使用してカンファレンスが実施できる体制を整備しております。この取り組みによりコロナ禍でも患者様を支える地域の皆様と顔の見える連携を継続していきたいと考えております。

また患者様の個人情報保護の観点からルールを作成し、オンラインでカンファレンスにご参加いただく関係機関の皆様には事前にFAXでお送りしております。

今後、当院の地域医療連携室のスタッフからカンファレンスの開催についてお声掛けさせていただきます。皆様からのご要望もお待ちしております。何卒ご理解とお力添えをお願い申し上げます。

❷ Navios EXハイエンドクリニカルフローサイトメーターの導入

血液内科　主任部長　中瀬浩一

この度、当院の検査部に導入された、フローサイトメーター（Navios EXハイエンドクリニカルフローサイトメーター）を紹介させていただきます。血液内科の領域では、フローサイトメーターは、診断と治療効果判定に必須の装置です。

まず、フローサイトメーターを用いた診断について説明します。造血器腫瘍、例えば白血病の診断においては、昔は人間の目が重要でした。つまり骨髄穿刺をして、塗抹標本（スライドグラスに骨髄液を塗って、染色したもの）を作成し、それを顕微鏡で見て、細胞の種類を見分ける事が診断の中心的な役割を果たしていました。

ところが、同じリンパ系の造血器腫瘍でも、B細胞とT細胞では予後も違いますし、治療に用いる薬剤も違います。しかし、B細胞とT細胞を顕微鏡の観察により形態だけで見分ける事は難しいです。そういった時に役に立つのが、フローサイトメーターです。細胞に蛍光抗体を加えて、細胞表面の特徴を調べる事で、より細かい診断に至る事が出来ます。つまり、造血器腫瘍の診断においては、フローサイトメーターは欠かすことのできない装置です。

また、フローサイトメーターは、診断だけではなく、治療効果の判定においても有用です。

造血器腫瘍の化学療法後、腫瘍細胞がどこまで減少したかの判断は、昔は人間の目に頼っていました。骨髄穿刺の塗抹標本は、通常の場合、細胞を500個数えます。そして、その中に白血病細胞が残存していれば、治療効果が不十分と判断します。しかし、500個の細胞を数えただけでは、本当に体の中から腫瘍細胞が消えたのかどうかは分かりません。例えば、10,000個の細胞中に1個だけ腫瘍細胞がいる場合は、500個数えただけでは検出できない可能性が高いです。しかし、フローサイトメーターを用いれば、10万個の正常細胞中に1個だけ腫瘍細胞が紛れているものも検出できるとされています。つまり、治療後の残存病変を非常に高い感度で検出することができるため、治療効果判定をより確実に行う事ができます。

今回、フローサイトメーターがNavios EXハイエンドクリニカルフローサイトメーターへと更新されました。

以前の装置と比較して、細胞を検出するレーザーが2本となり、同時に6種類の蛍光を測定することが可能となりました。また、レーザーの出力が増加したため、より鮮明な解析を行う事が可能となりました。今後、血液内科における造血器腫瘍の診断と治療効果判定により有効に活用できると考えています。

ベックマン・コールター株式会社HPより

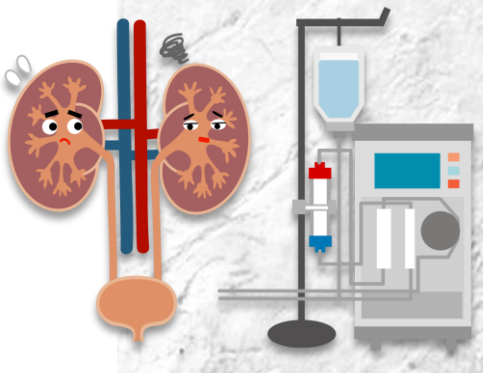
当科は造血幹細胞移植推進拠点病院として、造血細胞移植を含めた幅広い治療に対応可能です。血液疾患を疑う患者さんがおられましたら、是非紹介をいただけますよう、よろしくお願いします。

❸ 診療科紹介

腎臓内科　主任部長 村上　太一

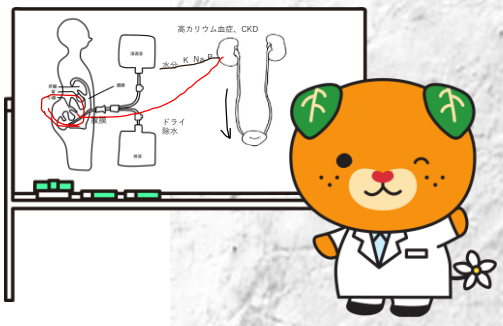
腎臓という臓器は生体内で老廃物の排泄、水・電解質調節、酸塩基調節、赤血球造血、血圧調節等々、様々な役割を果たしています。しかし糖尿病や腎炎、高血圧といった様々な疾患が原因で腎臓が障害され腎臓病を発症します。これらの原因が適切に治療されないと糸球体硬化や間質繊維化が進行し、腎臓機能低下が進行して末期腎不全に至り、腎臓機能を代替する透析治療や腎移植を受けなければなりません。現在末期腎不全による透析患者数は増加傾向で全国約34万人にのぼります。腎臓病の問題点は透析治療自体が患者の大きな負担になるだけでなく、腎不全進行とともに心血管疾患などの合併症が増え生命予後も悪化することです。また透析を行うことで医療費も増大します。加齢も腎機能低下の一因となるため高齢化とともに腎臓病・腎不全の罹患率が高くなることも腎臓病の特徴で、新規透析導入患者さんも高齢化しつつあり、腎臓病診療を難しくしています。

当院は腎臓内科専門医の揃った病院として幅広く腎臓病患者の診療に取り組んでおり、何よりも腎臓病患者さんの末期腎不全への進行抑制を重要な診療目標としています。腎臓病ではある程度腎機能低下が進行すると機能回復が難しくなり、腎機能低下速度も速くなります。そのため末期腎不全への進行抑制には腎障害を早期に発見・診断し、適切な治療介入を行うことが重要となります。ただ早期の腎臓病では自覚症状に乏しく、腎不全による浮腫、倦怠感、呼吸困難などが出現する頃にはかなり進行していることが多いため、腎臓は“沈黙の臓器”と言われています。早期発見のためには健診などで定期的に腎障害の指標となる尿所見異常、電解質異常、高血圧、腎嚢胞性疾患の有無を調べたり、腎機能の評価を行うことが有用です。何らかの異常を指摘された場合は腎臓病専門医への紹介基準を参考に腎臓内科へ紹介していただければ、腎障害や腎機能低下の鑑別診断を行い、必要に応じて治療介入を行います。既に腎不全が進行している患者さんでは腎不全に伴う高血圧、電解質異常、アシドーシス、貧血、体液異常などの治療も行います。そのうえで不幸にも末期腎不全となった患者さんには腎代替療法を導入します。多くの場合透析治療を選択されますが、泌尿器科と連携して腎移植治療への橋渡しも行います。また腎臓病に伴う心血管疾患などの合併症は患者のQOL、生命予後に影響を及ぼすため循環器内科、心臓血管外科、糖尿病内科など各診療科と連携して診療にあたっています。



愛媛県立中央病院腎臓内科は現在村上、垣尾、谷村、西脇の４名の常勤医が所属しており外来、入院、緊急対応、透析室業務を分担しています。外来は月水金曜日に一般腎臓病外来を、木曜日に腹膜透析外来を行っています。地域連携を介した紹介は50～60件/月で、再診を含めて30～50名/日の診察を行っています。腎炎・ネフローゼ症候群、急性腎障害症例や腎移植後の拒絶が疑われる症例では腎生検を施行し（年間50～60例）、病理診断の結果で治療方針を決定します。保存期治療にも関わらず腎不全が進行してくると腎代替療法（血液･腹膜透析、腎移植）について詳しい説明を行い（療法選択外来）、自分にあった治療法を選択していただきます。血液透析導入90～100例、腹膜透析導入5～10例、腎移植コンサルト5～10例程です。入院は腎生検、ステロイド・免疫抑制療法、透析導入、溢水管理、教育などを目的に年間500～600名ほどです。透析室では泌尿器科とともに60～70名の維持透析患者さんに加えて、急性腎障害や高カリウム血症、溢水症例での緊急透析、特殊な自己免疫疾患での血液浄化療法も行っています。また臨床業務以外にも研修医や医学部生の指導にも重点を置いていて、入院患者担当以外にも血液透析穿刺や中心静脈カテーテル挿入などの手技、緊急患者初期対応などを経験してもらいます。また腎臓病についての講義を行うなど、少しでも腎臓病について理解を深めてもらえるような指導に努めています。

高齢化が進む日本では今後も腎臓病患者数は増加することが想定されます。しかし、当院のみならず愛媛県全体でも腎臓病専門医は希少であり、専門医だけで膨大な患者に対応することは困難な状況です。そのため、少しでも効率よく診療を進めるためには病診連携が重要となります。かかりつけ医の先生方に糖尿病や高血圧、高脂血症、メタボリックシンドロームなどの基礎疾患をしっかり治療していただき、そのうえで専門医と連携し腎臓病進行を少しでも抑制していくことが重要と考えています。



❹第121回医療連携懇話会について

呼吸器内科 主任部長　井上考司

令和4年12月14日に「新型コロナとこれからの話」のテーマで医療連携懇話会を開催いたしました。現地およびWebにて非常に多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。COVID-19の流行から3年が経過しようとし、世の中はwithコロナへ徐々にシフトして来ていますが、それに伴う感染者の急増に医療機関としてどのように今後対応していくべきか、我々も含めて皆様が興味のあるテーマであったと思います。

まずは、感染症内科・漢方内科医長、鶴田寛二医師より「LongCOVIDの東洋医学的治療」のテーマでお話しました。COVID-19後の後遺症について、報告により幅はありますが2割から半数近くにおいて何等かの症状を訴えるとされており、市中の医療現場でも対応に困る場面が多いと思われます。各症状に対して、感染症医、漢方専門医の二刀流である鶴田医師ならではの講演内容でありました。

2題目は、感染管理認定看護師、岩本悟志看護師より「新型コロナの感染対策」についてお話しました。流行初期、限られた基幹病院のみでCOVID-19対応をしていましたが、瞬く間に限界に達し、日本中の医療機関で対応は避けられない状況となっています。その中で、感染対策は適切に行えているか？不十分なのでは？過剰なのでは？と不安な意見を多く耳にします。当院も、当初はfull PPEの完全防御で対応していましたが、PPEの手間やコストの負担は無視できないものであり、また3年間の経験から接触感染よりも飛沫・エアロゾル感染に重点を置くべきとの理解に変遷して来たため、患者の症状次第で感染対策は調整可能であり、無症状・軽症者では簡素化しています。併せてゾーニングも簡素化してきました。COVID-19と既に診断されている方への対応は難しいものではなく、COVID-19診療の外来や病棟から感染が広がることは極めて稀であると感じており、院内クラスターの発生は職員の家庭内感染や発熱が無かったために感染者と認識出来ていなかった患者の持ち込みなどがほとんどであることを理解することが大切です。

最後に当院、及び愛媛県下のCOVID-19診療のリーダー的存在である感染症内科主任医長の本間義人医師より「かぜ診療アップデート」の講演を行いました。COVID-19の流行に伴い、「発熱」の患者に踊らされてしまいがちな医療現場になってしまいましたが、初心に立ち返って、しっかりと診断をすることの重要性をメッセージとして発信しました。発熱患者の問診・診察なく抗原検査やPCR検査を行うのではなく、まずはしっかりと患者を診て鑑別診断を行っていくことが、COVID-19以上に恐ろしい多数の疾患を見落とさないことに繋がる重要な内容であったと感じました。

今後のCOVID-19対応は、国の方針に注視する必要がありますが、よりwithコロナとして一般診療に組み込まれていく可能性が高いと予想されます。引き続き、当院からも地域の医療現場の疑問点などにお答えしていこうと思いますのでよろしくお願いします。

改善コラム　臨床のトピックや診療に役立つ情報などお届けします！

⑤「改善コラム Part 7」　副院長・改善推進本部長　原田 雅光

～今後、求められるであろう、医療界の二刀流～

日本の誇る大谷翔平選手が、投手と打者（走塁も？）を子供の頃から、また、プロの世界・大リーグにおいても叶えています。野球が好き、向上心の塊、文武両道、心技体の融和、無私の心、謙譲の精神、科学的（スポーツ医学）裏付け、低侵襲手術（Tommy John Surgery）とリハビリ、など、まさに夢を実現化しています。我々も、地方自治体中核病院の一員ではありますが、①「患者診療」と、②『医療システム（Quality Management System）のカイゼン』を車の両輪のように両立させ続けたいものです。

“All for the Patients！！”

⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきたいと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。

<件名>メール登録（医療機関名）<本文>・医療機関住所、電話番号

E-Mail： c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で…

医療連携懇話会の動画配信が半年間ご覧いただけます！

動画配信3つのポイント！

① お好きな時間に

② 繰返し再生！

③ 3密回避

※　懇話会動画視聴のみご希望の方もご登録できます。ぜひお申し込みください。

お問い合わせ
愛媛県立中央病院　地域医療連携室　<担当>大矢根･三好
TEL：089-947-1111(代) FAX：089-987-6271　E-mail：c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回の医療連携懇話会のお知らせ

第123回医療連携懇話会

令和5年 2月8日(水) 19:00～20:10

「私の歩んだ道」

座長　がん治療センター長　森高 智典

テーマ　「小児がんとともに―40年間の小児臨床を振り返ってー」
小児医療センター長　石田 也寸志

「愛媛県立中央病院病理診断30年のあゆみ」
病理診断部長　前田 智治

「着任30年退職を迎えて、皮膚科治療の変遷」
総合診療センター長　定本 靖司

お申込・詳細はコチラから Click!

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス　媛さくらネット

<現在閲覧できる項目>

閲覧無料

- 処方・注射・検体検査・病名
- 画像（放射線、エコー、生理検査）
- 循環器動画・放射線画像診断レポート

（2021年11月1日以降の情報）（2022年3月1日以降の情報）

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから Click!

地域連携室便り

次回2月号(No.33)は
2月中旬頃刊行の予定です。
お楽しみに！